

2 自然環境の保全と再生のための課題

丹沢大山については、丹沢大山自然環境総合調査の結果、自然生態系の劣化は予想以上に進行していることが明らかになりました。丹沢大山の豊かな自然環境を保全・再生するために、科学的かつ総合的な自然環境の管理に取り組むことが緊急の課題となっています。

また、広大な丹沢大山で、これらの保全・再生の対策を実行していくためには、ボランティアの参加など県民の理解と協力が不可欠であり、国や市町村等とも連携して取り組む必要があります。

現状の問題点に対しては、具体的に次のような課題があげられます。

- (1) 高標高地で目立っているブナの立ち枯れの問題に関しては、まず、その原因を明らかにすることが課題となっており、この地域の森林再生については、長期的な視点に立ち、研究成果を基礎とした育成・保全対策の取組みが必要です。
- (2) ニホンジカの動態は、森林植生の再生を左右する一つの鍵を握っているといえます。そのため、ブナ等の後継樹や林床植生を保護柵等で保護するとともに、ニホンジカについて、生息地と個体数管理に視点をおいたワイルドライフ・マネージメントの考え方を導入し、これに基づいた科学的な管理手法を実行する必要があります。
- (3) 登山者の過剰利用等により森林植生が退行し、裸地や崩壊地の目立つ登山道周辺や風衝地等の自然植生の回復が課題となっています。
- (4) 大型動物個体群を健全に維持するためには、その孤立化を防ぎ、生息域の拡大を図ることが必要です。そのため、生息域となる森林の整備を図るとともに、分断されている森林については、回廊を構築するなどして、生息域の連続性を確保することが課題となっています。
- (5) 希少な動植物を保全するためには、その生息地を流域単位で管理するなどの手法を研究し、その成果を実行に移す必要があります。また、希少動植物の生態については不明な点が多く、今後、その生息・生育状況に関する一層の調査研究が必要です。
- (6) 沢、尾根、山頂等は生物の多様性に富んでいますが、オーバーユース（*）が悪影響を及ぼしており、特にゴミやし尿等の処理対策、特別保護地区の指定の見直しなどが課題となっています。
- (7) 自然環境の保全と土地利用等との調整の面では、丹沢大山における各種工事との調整、森林整備のあり方及びキャンプ・登山等公園利用との調整が課題となっています。

